

History

キラリを再発見

御前崎市最古の横穴群

郷西横穴群は、佐倉字郷地区の北端部に位置する津島神社の東側に位置しています。

昭和5年に刊行された旧「静岡県史」に津島神社東の横穴から人骨2体と土器、刀が出たと記されており、これが郷西横穴群であると思われます。

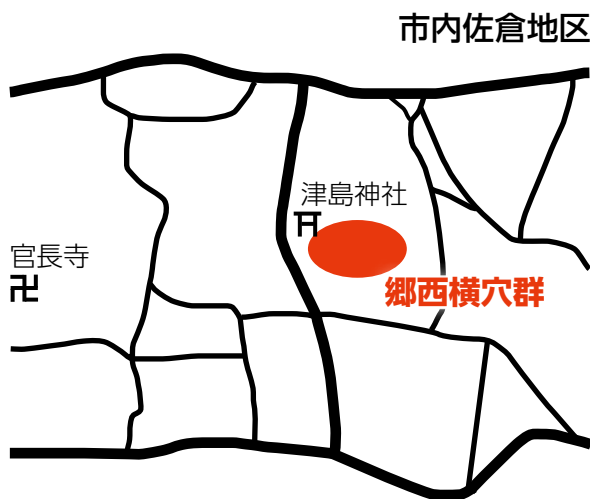
2基で1群を成す郷西横穴群は、西側の第1号墳は遺体を安置する玄室の長さが約3^{メートル}、入り口から玄室への通路である羨道の幅が1.15^{メートル}の長円形だと思われませんが、崩壊により詳細は不明です。

東側の第2号墳は、平面形が略横長円形で断面はドーム状を成すようですが、崩壊・掘削により詳細は不明です。

この横穴群からは7世紀末から8世紀初頭の広口長頸壺が1点出土していますが、それ以外の長脚高坏や2段透高坏、短頸壺、短頸埴、長頸埴などの出土遺物(10点)は6世紀中頃のものであることから、市で最も古い時期に構築された横穴群であると考えられます。



▲郷西横穴群の出土遺物



埋蔵文化財包蔵地
郷西横穴群

照会 社会教育課 ☎0548⑧1129

Atomic

暮らしと原子力

浜岡原子力発電所
緊急時即応班準備チームが発足

中部電力は、防災体制を強化する一環として「緊急時即応班」の立ち上げに向けて準備を開始しました。

緊急時即応班とは、浜岡原子力発電所の初動対応体制を強化するため、訓練を積んだ中部電力社員が24時間365日発電所に常駐し、事故発生時の初動対応を専門に行うチームのことです。

緊急時即応班は「重機によるアクセスルートの確保」や「電源車による電源の確保」などの想定される対応のほか、いかなる状況にも臨機応変に対応できるよう、普段から事故を想定した教育や訓練に励みます。また、日常業務においては、高台に配備する「可搬型の動力ポンプ」や「電源車」など、重大事故対処設備の巡視や定期的な試験も行い、常に使える状態にしてお

く任務につきます。
中部電力は、7月1日付けで組織改定および業務分担の見直しを行いました。



▲可搬型の動力ポンプ



▲がれき撤去訓練